

### 災害医療支援部報告

#### 【国内災害】

##### 1. 熊本地震対応

(株) 日立製作所の協力により、被災地救護所へポータブル撮影装置を設置。救護班に帯同した診療放射線技師によって、X線撮影等診療補助活動を行った。

同時に、救護所に富士フィルムの協力によりポータブルエコー装置の設置も行った。

[支援期間] 2016年4月22日(土)～27日(水)

[支援場所] 熊本県益城町総合体育館避難所

[連絡調整] 戸口豊宏(副会長)・中田正明(神戸・災害医療支援部)  
安部一成(中・四国ブロック理事)

[設置担当者] 坂井征一郎(唐津・災害医療支援部)  
秋友信男(岡山)・岡川貢(高松)

[撮影担当者] 坂井征一郎(唐津・災害医療支援部)・秋友信男(岡山)  
岡川貢(高松)・米倉広宣(徳島)・岡田秀美(三原) (敬称略)

[撮影患者数] 17人

##### 2. 被災病院への診療放射線技師派遣についての本社への働きかけ

東日本大震災においても平成28年熊本地震においても、被災地の赤十字病院へ被災地外からの技師の支援は行われなかった。その大きな要因は、被災病院の放射線科から支援要請が出なかったことであるが、本社の支援対象が基本的に医師・看護師・主事であることも少なからず影響している。バランスの良い病院支援を行うため、上記支援対象にコメディカルを加えるよう本社医療事業推進局に要望するとともに、放射線科が支援要請を出さなかった理由の一つに、装置メーカーによる放射線機器操作の独自性を挙げ、支援要員の選出には注意を要すること、その点で技師会がお手伝いできる可能性があることを示した。

上記事項は2回にわたる協議の末、コメディカルを支援対象に加えることを、医療事業推進本部から社内提案することが決まった(2017.02.17)。

##### 3. 可搬型デジタルX線撮影装置の活用

東日本大震災の折、(株) キヤノンマーケティングジャパンから日本赤十字社に5台の可搬型デジタルX線撮影装置(CXDI-50G)が寄贈され、東北各地へ配備されたが、現在は使命を終え本社で保管されている。それらの今後の有効利用方法を本社救護福祉部と協議中。

##### 4. 国内災害担当者増員

第3回常任理事会にて、以下の方々が国内災害担当者として承認された。

山根 晴一 (鳥取赤十字病院)

嶋田 祐子 (大阪赤十字病院)

及川 林(しげる) (石巻赤十字病院) (敬称略)

5. 第 25 回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会への講師派遣 (2017.02.25)  
「熊本地震における日本赤十字社診療放射線技師会の活動報告」(中田)  
「パネルディスカッション災害対策『来るべき大災害が来る前に』」(駒井・中田)
6. 学会発表等
  - ・ 第 32 回日本診療放射線技師学術大会 (2016.09.16-18)  
「日放シンポジウム 1 (災害対策委員会) 熊本地震への対応と今後の地震対策：日本赤十字社放射線技師会の活動」(中田)  
「日本赤十字社診療放射線技師会における熊本地震に対する支援活動について～東日本大震災の活動からの進歩～」(中田)
  - ・ 第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会 (2017.02.13-15)  
「日本赤十字社診療放射線技師会における熊本地震に対する支援活動報告」(中田)

### 【原子力災害】

1. 原子力災害対応基礎研修会参加  
平成 28 年度日本赤十字社第 4 ブロック原子力災害対応基礎研修会  
(2016.11.26 大阪 磯田・駒井・松井・坂井)  
平成 28 年度日本赤十字社第 6 ブロック原子力災害対応基礎研修会  
(2017.01.18 福岡 駒井・坂井・高本)  
平成 28 年度日本赤十字社第 2 ブロック原子力災害対応基礎研修会  
(2017.02.22 東京 磯田・駒井・松井・高本)  
今年度からブロック単位の開催になった。講師は開催ブロック、近隣ブロック所属の技師を中心に選定した。
2. 緊急被ばく医療アドバイザー会議への出席  
平成 28 年度第 1 回日本赤十字社緊急被ばく医療アドバイザー会議 (2016.07.21-22)  
平成 28 年度第 2 回日本赤十字社緊急被ばく医療アドバイザー会議 (2016.12.12-13)  
(磯田・駒井・松井・坂井・高本)
3. 原子力災害対応検討委員会への出席  
平成 28 年度第 1 回日本赤十字社原子力災害対応検討委員会 (2016.11.09)  
平成 28 年度第 2 回日本赤十字社原子力災害対応検討委員会 (2017.01.31)  
(駒井)  
当委員会は日赤の原子力災害対応において、全社的に取り組む必要のある課題について検討し、必要な対応策を講じることを目的として、今年度新たに設置された。  
主に原発事故被災病院の病院避難、被災病院からの患者受け入れ、被災病院への支援について協議された。
4. 第 17 回日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会への講師派遣 (2016.09.24-25 大分)

## 本会の動き

- 「日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部の活動（原子力災害について）」  
（駒井）
- 「放射線防護資機材について・原子力災害における安全確保について」（坂井）
- 「サーベイメータ・デジタル個人被ばく線量計の保守管理と使用方法」（磯田）
- 「線量計算」（駒井）

### 5. IFRC (CB)RN WORKSHOP 参加（2016.12.05-09 ウィーン）（駒井）

2017年10月に策定された国際赤十字赤新月社連盟の“Nuclear and Radiological Emergency Guidelines”の内容に基づき、各国赤十字赤新月社が自社の原子力災害対応能力を向上させることを目的として開催された、初めてのワークショップ。連盟 CBRN 災害担当官、オーストリア赤十字社の運営の下、参加者は15社からの災害企画担当者20名。日本からの参加者は駒井を含め2名で、日本赤十字社の原子力災害への取り組みと、福島の実況についての報告も行った。

### 【国際救援】

1. 平成28年日本赤十字社診療放射線技師学術総会にて海外派遣報告（2016.06.03-04）  
「ネパール地震救援事業における診療放射線技師の活動」（駒井）
2. 第29回日本赤十字社診療放射線技師東部ブロック研修会にて講演  
（2016.11.05-06 東京）  
「国際救援における診療放射線技師の活動」（駒井）

### 【災害医療支援部会】

2017年2月24日（金）に神戸赤十字病院にて開催。

出席者は磯田康範副会長他、全災害医療支援部員が出席。今年度の反省と来年度の活動方針が協議された。